

「日本の点字」墨字版 在庫処分に伴う無償提供のお知らせ

日本点字委員会事務局

このたび、日本点字委員会では、2011年以前の「日本の点字」墨字版の在庫を一斉に処分することにいたしました。

これに先立ち、送料をご負担いただける希望者に無償で提供いたします。いずれの号も資料的価値の高い原稿が掲載されています。この機会に日本の点字の歴史の一端にふれていただければ幸いです。

お申し込みにあたっては、以下の点にご注意ください。

- ・提供できる冊子は、墨字版の在庫がある号のみになります。現時点では8号以前の冊子は残っていません。また、10号・14号・15号・19号・20号・23号・26号については在庫がありません。
- ・対象になる冊子は35号までです。36号～40号（最新刊）は、従来通りの価格で販売いたします。
- ・対象になる冊子の概要については、別紙をご覧ください。
- ・在庫があっても残り10部以下になっている冊子もあります。受付は先着順としますので、在庫切れになった冊子については、ご提供できません。
- ・受付期間は2016年12月末までとします。その後、残った在庫は処分いたしますので、ご提供できません。
- ・在庫処分した号については、順次PDF版をホームページにアップいたします。ただし、対象となる冊子が多数であるため、どの号をいつ頃アップするかというお問い合わせには、お答えしかねます。
- ・点字版については、最新号までの全ての号の点字データをホームページにアップしています。無償でご利用できますので、ご活用ください。
- ・送料はお送りする冊数によって異なりますので、ご注文時にはお答えできません。冊子をお送りする際に、金額をお知らせする送付状と郵便局の払込取扱票を同封しますので、到着後にお支払いください。
- ・送付状には、ご寄付のお願いを書かせていただきます。強制ではありませんが、多少なりとも、ご支援いただけますと幸いです。

【お申し込み・お問い合わせ】

日本点字委員会事務局

〒169-8586 東京都新宿区高田馬場 1-23-4 日本点字図書館内

TEL 03-3209-0671

FAX 03-3209-0672

E-mail wadat@nittento.or.jp

URL <http://www.braille.jp/>

(別紙)

「日本の点字」在庫号数と主な特集内容

-
- 9号(1981) 点字表記に関する問答欄 動詞「する」の切れ続き、古文のかなづかいにおけるルビの扱いについて、点字楽譜についての決定事項、コンピューター用言語の6点式点字表記(相互変換用点字専門委員会)
-
- 11号(1983) 「現代かなづかい」の問題点とその展望(辻村敏樹)
-
- 12号(1984) 外来語及び外来語を含む複合語の切れ続きの検討、石川県点字・触図研究会のあゆみ(宮村健二)
-
- 13号(1986) 複合語の構成と分かち書きの問題(野村雅昭)、国語審議会への要望書、コンピューター用言語の6点式点字表記改正について(相互変換用点字専門委員会)、外来語及び外来語を含む複合語の切れ続きの検討(その2)、近畿点字研究会のあゆみ(疋田泰男)
-
- 16号(1990) 『日本点字表記法 1990年版』の編集方針と見直しの概要、点字が開いた社会参加への道(永井昌彦)、点字と情報機器(加藤俊和)
-
- 17号(1992) 日本点字委員会 25年の歩み(下沢仁)、盲学校用点字教科書の表記について、よりきれいな点字の普及と点字ボランティアのネットワーク化をめざして(金沢明二)
-
- 18号(1992) ルビつきことばの処理の周辺(西尾正二)、英語点字表記の一部改訂について(外国語点字専門委員会)、『日本点字表記法 1990年版』の発行に伴う点字数学・理科記号の解釈について(点字科学記号専門委員会)、国際点字楽譜統一会議の結果と今後の対応(加藤俊和)、ルビの扱いについて(関東地区小委員会)、ルビカッコについて提案(小倉かほる)
-
- 21号(1996) 情報処理用点字表記に関する報告(点字科学記号専門委員会)、試験問題の点字表記(小林一弘)、小学校の国語教科書に点字についての説明文がのる
-
- 22号(1997) 日本点字委員会 30周年記念座談会「今、点字表記の課題はこれだ!」、情報処理用点字表記に関する報告・補足(点字科学記号専門委員会)、『新国際点字楽譜記号解説』(英語版)発刊される(加藤俊和)
-
- 24号(1999) 古文点訳管見(小林一弘)、古文の点字表記について(案)、漢文の点字表記について(案)、点字数学・理科記号の暫定改訂案について(点字科学記号専門委員会)
-
- 25号(2000) 点字読み書きの効率性と普通文字との共通性をめざした点字表記の改善とその課題(木塚泰弘)、下澤仁氏の思い出(本間一夫)、動植物名の点字表記についての提案(東海点字研究会)、『日本点字表記法 2001年版』の編集に当たっての検討事項(日本点字委員会『2001年版』編集委員会)、複合動詞「する」の切れ続きに関するアンケート調査の結果報告(小林一弘)
-
- 27号(2002) 澤田慶治先生について(金子昭)、『日本点字表記法 2001年版』の編集・発行を終えて(編集委員長 木塚泰弘)、点字表記規則の改訂について思うこと(阿佐博)、『点字数学記号解説暫定改訂版』および『点字理科記号解

説暫定改訂版』の発行と情報処理用点字表記の規定（点字科学記号専門委員会）

-
- 28号(2003) 特集『日本点字表記法 2001年版』をどう受けとめるか、『日本点字表記法 2001年版』の用語解説
-
- 29号(2004) 特集 本間一夫・永井昌彦 — 人と業績、数式等とともに用いられる句読点の用法の一部変更等について（点字科学記号専門委員会）
-
- 30号(2005) アルファベットと外国語の表記について、国際英語点字協議会第3回大会報告（山口雄仁）
-
- 31号(2007) 点字楽譜表記の国際的な動きと 2004年のスイス会議（加藤俊和）、点字ピアノ楽譜あれこれ（田中禎一）
-
- 32号(2008) 一般文章中における「漢字や仮名で書き表された単位」の切れ続きについての検討案、日本における点字数学記号の変遷について（尾関育三）、私の点字教室（小林一弘）
-
- 33号(2009) 表記符号について補足、わが国における点字数学記号の変遷、二つの「製作基準」の紹介
-
- 34号(2010) ルイ・ブライユ生誕200年・石川倉次生誕150年記念特集号
-
- 35号(2011) 点字表記法の統一と体系化をめざして（木塚泰弘）、特集 「点字表記法」のあり方を考える、一般文章中における「漢字や仮名で書き表された単位」の表記の変更について

※各号の掲載記事については、日本点字委員会のホームページでもご確認いただけます
<http://www.braille.jp/>